

有限会社菜匠

最新型包装機械導入による鮮度保持 生産効率向上等を図った 次世代型の農産物物流・販売への取組

最新型包装機械「SBU-134」を導入し、多種多様なデザインのパッケージ商品を市場に提供することを目指した。機能性を備え、リサイクル可能な環境配慮型パッケージの利用によって、高品質で魅力的な農産物を提供し、新規市場の開拓を図った。生産効率も飛躍的に向上。作業者の作業環境も改善した。

事業の背景・目的

現在、本社工場で目視選別ライン付き自動計量機が3台、第2工場では自動計量機が1台、デュアルパック機3台、カメラ式サイ

ズ別選別機などの機械を配置している。

パート、派遣を含め本社で約50人、第2工場で約60人の従業員を配置し、生産ラインをフル稼働させているが、増加するオー

ダーに十分応えきれていない状況となっている。これらの課題を解決するため、最新型包装機「SBU-134」を導入した。

事業の内容と成果

(1)最新型包装機「SBU-134」の導入

「SBU-134」の導入によって、直接商品に手を触れる部分ができなくなり、商品の品質劣化が防止できる。農産物の高品質・高鮮度が保たれ、賞味期限の延長が図れるとともに、流通による付加価値低下発生のリスクを低減できる。



写真1.手で触れる機会はほとんどなく、機械が自動でパックを行う

「SBU-134」は、1台で多種多様なパッケージの作成が可能

で、消費者の選択性が大幅に広がる。特に傷みやすい果物に有効で、扱い品目が拡大できる。また、酸素透過性が良いパッケージのため、品質保持期限の延長も図れる。専用包材の「ソルマバッグ」を使用した形態は、市場にはほとんど出回っておらず、消費者の購買意欲を高める効果もある。

生産性は従来の「約12パック/分」から、導入後の試運転時で「約23パック/分」となった。これまでは人材確保・教育に経費や時間が必要で高コストになっていたが、導入後は装置への初期投資のみで済み、従来の経費を社員の給与アップ、新規雇用の創出などに回すことができる。

また、導入によって、商品の品質担保、安全性の向上により取

引先との信頼関係を今まで以上に強固にできる。他の様々な品目のパックも可能になり、販路開拓・販路拡大が図れる。機械化による事業拡大は雇用につながり、地域経済へ寄与できる。さらに、農産物に付着した「土」などを防ぐため、従業員のマスク着用が必要であったが、機械化による作業の軽減により、作業環境が劇的に改善した。

(2)試運転作業報告

「SBU-134」のスペックは、1分間の製品化率「20～35パック(マックス)」だが、試運転では不慣れなこともあり、1分間の製品化率は「約23パック」だった。機械に慣れることで製品化率はアップする見込み。マックスの「1分間に35パック」になると、「1時間あた

り2,100パック」が実現でき、作業員3～4人の減員ができる。さらに、導入前の8人体制の1時間750パックを大きく超え、3倍近いパック詰めが可能になる。

(3)「SBU-134」の専用包材「6種のソルマバッグ」の導入

導入後の試運転では、酸素の透過性が大変良く、特に鮮度保持に、呼吸や適度な乾燥が必要な農産物(玉葱、馬鈴薯、柑橘系

果実など)の品質保持期限が大幅に延長できた。素材は100%「ポリプロピレン」で、資源としてのリサイクルが容易であるため、消費者の支持が期待される。

「ポリプロピレン」は軽量で強度もある。開封に関しては、現在はほとんどがハサミやナイフなどが必要だが、導入後は刃物が不要で、手で簡単に開封して、商品を取り出すことができる。高齢

者や子どもの安全性が増す。

規格の柔軟性についても、少量規格から大容量規格まで、種類が様々(6種類×各3色=18パターン)あるので、量販店のバイヤー・消費者の要望に応えることが可能。また、デザインもこれまでは一般的でシンプルなデザインだったが、斬新なデザインが可能で、消費者の目を引き付け、購買意欲の向上につながる。

今後の展望

「1台で6種類」のパッケージができる包装機械は日本にはなく、「6種類×各3色=18パターン」のパッケージは、販路拡大や取り扱い品目の拡大につながる。また、種子関係の業界大手であるS社から、最新型包装機械を使用した「馬鈴薯の種芋」のパックの打診があった。納品実績のなかったホームセンターなど新規領域への商圏拡大が期待される。

新パッケージは、バラエティーに富んだ形態のバッグが多い。ファッション性もあり、量販店のバイヤーや消費者の満足度向上



写真2.資材を設置した状況



写真3.設置した資材で作った「バードバッグ」

につながる。素材は100%「ポリプロピレン」であり、資源としてのリサイクルが容易である。耐久性があって軽量で、「ソルマバッグ」は手で簡単に破くことが可能。農産物を入れる包材としての独自性・独創性が発揮できる。

最新型機械を導入することで生産効率が高まり、人員を他の作業に従事させることができる。会社全体の売り上げ向上につながり、従業員の給与アップが期待される。新パッケージは大きな売り上げ拡大が見込め、結果的に「雇用拡大」にもつながる可能性がある。

DATA

有限会社菜匠

所在地 〒329-0216 栃木県小山市榎木275-12
実施場所 [第2工場]
〒329-0215 栃木県小山市網戸菱堀494
TEL 0285-41-0751
FAX 0285-45-7640
URL <http://www.sai-sho.co.jp/>
E-mail saischo@sai-sho.co.jp
代表者名 尾村 敦司
設立年 2000年
資本金額 2,300万円
従業員数 140名

事業内容

●農地開発及び産地育成をし、青果物(玉葱・馬鈴薯・にんにく・南瓜・その他青果)を周年安定的に量販店に供給をし、それに伴うパッケージデリバリー業務